婦人と子ども 第一巻第二號目次

卷首
吉田松陰の母瀧子の肖像

子ども
いさましい少女〇鳥と子ども〇影畫〇猿の物眞似〇謎々

家庭
子どもと境遇……女子高等師範學校保姆……神門とも
何故泣かなくなつたでせう……仝……松村ひさ
簡易料理……愛家女史
子供に映れる家庭の影……女子高等師範學校保姆……林ふゆ
印度土人の家庭生活……L、I、
前かけの拵らへ方……育兒女
兒母思ソーダン……東京盲唖學校々長……小西信八

學術
獅子の話……岩手縣師範學校教諭……佐藤禮介
面白き理科の實驗……若溪學人
日本化したる外國語……蠍水生

講義
育兒學……女子高等師範學校教授……中村五六

史傳
藤田東湖の妻里子……仝……下村三四吉
ローランド夫人……鄒越生

文苑
システーとドミノー……女子高等師範學校教授……安井てつ
車のわだち……學水生
新年の戯歌
子らの遊び……東京府第一高等女學校助教諭……東くめ
雪。春山……仝人

說林
兒童訓育論……女子高等師範學校教授……黑田定治
女子の職分……卑念士

研究
臺灣の古談……女子高等師範學校教授……町田則文
倫理管見……高等師範學校研究科……石井國次

雜錄
幼兒保育につきて……女子高等師範學校助教授……東基吉
はきよせ……女子高等師範學校保姆……清水鮎
公德の養成〇禮節作法教授の注意〇婦人の袴〇婦人の自轉車と蝙蝠傘〇兒童發表の機會を多くせよ〇幼年唱歌〇有毒玩具の發賣禁止に付きて〇濟客の意氣〇如是我聞

彙報
新刊紹介〇女子大學〇女子高等師範學校入學試驗問題〇保姆傳習所〇英國女皇の崩御〇其他數件

●發行は毎月五日毎に發行第一號一月廿日發行

●定價 一册金拾錢●郵税金壹錢●六册前金金五拾七錢 郵税金六錢●拾貳册前金壹圓拾錢郵税金拾貳錢

●臨時増刊は其都度定價を定めて別に申し受く●切手代用は壹割増にて壹錢切手に限る

●注文 は總て前金にて日本橋區本石町三丁目廿三番地金昌堂宛領收證は別に發送せず本誌の到達を以て領收の證と心得らるべし 送金は神田今川橋又は日本橋室町郵便取扱所受取人金昌堂宛の事見本を要せらるゝときは郵便切手(但し一錢に限る)拾二枚を添へて申越さる可し

●購讀者 宿所姓名は楷書にて御認めの事●轉居の節は新舊共に御通知なさよ●前金相切れ候節は赤にて●印を御姓名の上に附し候間前金御送付をこふ●御入用なき時は御斷りをこふ

●編輯 關する御照會及原稿御寄贈の節は東京本郷區女子高等師範學校附屬幼稚園內フレーベル會宛のこと

●廣告料 三十一行廿四字詰壹行十八錢●特別欄壹行四十錢●壹等二十錢●特別半頁十一圓●壹頁二十圓●壹等半頁五圓八十錢 壹頁十圓●二等半頁五圓●壹頁八圓

明治三十四年二月八日印刷
同 年二月十一日發行

編輯兼發行者 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地 杉山辰之助
印刷者 東京市京橋區木挽町九丁目三十二番地 中野鍈太郎
印刷所 東京市京橋區築地三丁目十五番地 帝國印刷株式會社
發行所 女子高等師範學校附屬幼稚園內 フレーベル會
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地 金昌堂
大賣捌所 東京東京堂●同東海信文合資會社●同北隆館

不許複製